

【2】大田市立高山小学校

2-1 学校の沿革・概要

所在地	大田市水上町白坪 140 番地
校長	桑本 浩泰
生徒数	1年=7、2年=7、3・4年=12、5・6年=12 計 38 名

- 明治7年 水上小学校の前身である三久須、萩原、福原の3小学校開校
大代小学校の前身である大家本郷 166 番小学校開校
祖式小学校の前身である邑智郡第 132 番学校開校
- 明治26年 祖式村祖式尋常小学校と改称（祖式小学校）
水上村尋常小学校と改称（水上小学校）
- 明治27年 八代村尋常小学校と改称（八代小学校）
- 明治38年 大家村尋常高等小学校と改称（大家小学校）
- 昭和16年 水上村国民学校（水上小学校）、祖式村国民学校（祖式小学校）、大家国民学校（大家小学校）、八代国民学校（八代小学校）と改称
- 昭和22年 水上村立水上小学校、祖式村立祖式小学校、大家村立大家小学校、八代村立八代小学校と改称
- 昭和23年 大家村・八代村合併により大代村立大代小学校と改称
- 昭和26年 大森町立水上小学校と改称
- 昭和30年 川本町立大代小学校と改称
- 昭和32年 大田市立水上小学校、大田市立祖式小学校と改称
- 平成元年 水上小学校、祖式小学校の統合により、大田市立高山小学校と改称
高山小学校校舎竣工
- 平成7年 島根県緑の少年団活動発表大会で最優秀賞受賞
- 平成8年 平成7年度全日本学校関係緑化コンクールで入賞
全国緑の少年団活動発表大会で緑の奨励賞受賞
- 平成9年 「全国野鳥保護のつどい」で林野庁長官より感謝状を受ける
- 平成24年 大代小学校、高山小学校が統合し、新「大田市立高山小学校」となる

校区は水上・祖式・大代の3町にまたがっている。のどかな田園風景が広がり、山々に囲まれた農山村地域である。昭和31年に3町とも大田市に合併し現在に至るが、人口は毎年減少傾向にある。校区には「イズモコバイモ」や「ギフチョウ」が生息している大江高山がそびえている。また、世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的背景」の一部も校区内に有している。

地域の教育に対する関心は高く、社会教育における文化・体育的活動へ積極的に参加し、PTA 活動も盛んである。児童は素直で明るくまじめで、学年の枠を超えてみんなで一緒に

活動している。

2-2 学校林の現地調査

所在地 高山小学校に同じ

面積	林種	樹種	歩合	林齢	樹高	標高
約 4.2ha	天然・人工・ 竹林	雑木、スギ・アカマ ツ、タケ	50:40:10	20～80	約 20m	約 270m

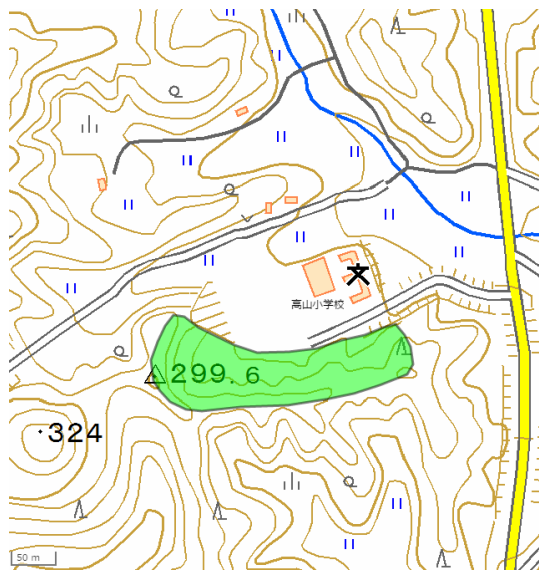


図 1 高山小学校学校林概略図

現在の高山小学校は平成元年に統合した時に新しく校舎が建てられ、同時に隣接地に学校林が整備された。PTAや地域の協力により「みどりの道」として整備され、生活科や総合的な学習の時間、他校との交流学习、PTA活動等に利用している。

敷地内の高木層はコナラ、スギ、ウラジロガシ、タブノキなど。亜高木および低木層はヤマボウシ、ヤマウルシ、ナツハゼなどからなる落広・常広・常針・竹の混交林となっている。「みどりの道」入り口から尾根伝いに歩道が整備され、その周辺の除伐や草刈りは適度になされている。急斜面には階段も整備され、ロープの設置もしてある。

しかし、敷地が広いことから整備が行き届いていない箇所もあり、特に南西側（グラウンド側）の斜面は池を作ったらしいが今は堆積物で埋まり、その周辺はメダケ群落が繁茂しており、歩くことも困難な状況である。

2-3 学校林活動の調査

聞き取り相手	校長 桑本浩泰、教頭 田中智香子
カリキュラム	総合的な学習の時間、生活科、他校との交流学习、PTA活動
対象学年	全学年
利用方法	樹木観察、ネイチャーゲーム、自然工作、枝打ち・間伐体験、紙づくり体験、陸上の練習コース

利用頻度	年10回以上
外部講師・委託先	NPO法人もりふれ倶楽部
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・スズメバチなど危険生物の懸念があるので安全管理上、子どものみでの立ち入りは不可としている。 ・保護者による年数回の作業では管理が不十分
今後取り組んでいきたいこと	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達だけで遊べるような環境づくり ・保護者にただ草刈りをしてもらうのではなく、イベント等とからめて管理作業を行いたい ・子供たちの体力増進のため、体育の授業で活用したい ・イズモコバイモやミヤコアオイを植栽し、貴重種を守り、ギフチョウの舞う学校林にしたい

設営当初から学校林を活用した取り組みをしており、27年を経て当時学校林で遊んでいた子どもが保護者になり、その思い出を今の子どもたちに語るまでの年月が経った。開設当時は休み時間に子ども達だけで遊んだり、炭焼き体験なども行っていたりしたが、現在は安全管理上の問題と指導者がいないことから断念している。

しかし、児童にはなるべく学校林で活動してほしいとの教職員および保護者の思いから、授業で積極的に利用したり、参観日に親子でネイチャートレッキングをしたり、温泉津の海辺の学校との交流学习を行ったりするなど、さまざまな活用をしている。さらに、大江高山の貴重種を学校林で管理・育成することを目指してふるさと教育にも取り組んでいる。

学校林の管理を自分たちの手で行うことが理想だが、現実には困難である。今後も楽しく、安全に学校林を活用していくためには定期的な草刈り、危険生物の有無確認、立ち枯れや倒木の処理などが必要であり、専門に管理する人や業者に委託できる運営予算を取り組んでもらえることを望まれている。

添付資料 2



写真 2-1
樹木観察（平成26年11月19日）



写真 2-2
間伐体験 1（平成26年11月26日）



写真 2-3
間伐体験 2（平成26年11月26日）



写真 2-4
学校林外観（平成27年5月12日）



写真 2-5
学校林内観（平成27年5月12日）



写真 2-6
学校林全景（平成27年5月12日）